

科目名	担当教員	授業方法	授業形態	履修者数	履修学年
Proseminar #2	長谷川 健治先生	演習	遠隔：リアルタイム	6名	2～4年

【授業内容】

近現代日本における「統合と抵抗」をテーマとした授業です。明治後期から現代までの時代における事例を取り上げ、文献購読とディスカッションを中心に進めています。

【授業の実施方法】

オンラインリアルタイム授業で、宿題の文献購読を元に学生が考えた質問・問題提起に回答する形で実施しています。

授業前日までに授業支援システム上の掲示板に質問・問題提起を投稿させます。これらの質問・問題提起を元に、授業内のミニ講義とディスカッションを実施しています。

【授業準備のポイント・工夫した点】

遠隔授業に限定されることではありませんが、宿題の文献をしっかりと読んだ上で授業に参加させています。毎回必ず発言機会が回ってきて、受講生一人一人の質問と問題提起を中心に授業が進められることを初回から強調しています。

受講生の大半は渡日できていない留学生なので、時差の影響が比較的少ない5限に設定しました。

また、オンラインリアルタイム授業に学生が参加しやすくなる工夫として、授業支援システムの「掲示板」上に事前にディスカッションの元となる質問・問題提起を投稿させています。授業中は、学生による質問・問題提起と教員による応答という一対一のやりとりの繰り返しに止まらず、学生がより自由に発言できるよう、適宜学生たちに関連する問題を投げ返すようにしています。

この授業は少人数なのでブレイクアウトルームは使用していません。他の授業で使用する際は、対面授業と同様、各グループの代表者を決めてグループ内で話し合った内容を発表させています。

【従来の対面授業との違い～学習効果の観点から】

学習効果の違いについては対面・オンラインであまりない印象です。

受講生は発言時を含めてカメラオフOKとしています。その結果、講師以外全員カメラオフです。学生たちの表情、ボディランゲージ等が見えないので、対面授業と同じように受講生の反応を読み取ることはできません。他方で、ラジオ番組のような雰囲気の中で発言内容により集中できる面もあると感じています。また、チャット機能でリンクを共有したり、個別メッセージを送ってきたり、絵文字で反応したりと、対面時よりも受講生たちが身軽にコミュニケーションできる面もあります。